

しゃっちょうは行く!

50

Broaden your horizons ⑤〇 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセレのしゃっちょう、児島恵美子です。

さて、3月3、4日に記念すべき第1回目の6年制国家試験が終わりました。新国家試験には、大きな変更がありました。まず、問題数が240問から345問に増えました。人が2日間で集中して解ける題数が350問といわれておりますので、人間の限界に挑戦!です。次に、科目の割合で実務が3倍に増えました。5回生で実習をしますからね。

最後に、「複合問題」というものが新たに出題されました。化学・生物・物理であろうと、衛生であろうと、法規であろうと、最後はすべて実務につなげていくという考えのようです。学生は、例えば衛生を勉強しているとき『衛生モード』になってしまいがちですが、それをすべて『医療につなげる』ことを意識して勉強し、複合問題が解けるようにしていくのです。

問題形式だけではなく、合格基準も変わりました。今までは合計65% (156問/240問中) 以上の正解と、基礎60問、衛生40問、法規20問、医療120問中の35%以上が合格基準でした。新国家試験では合計65%以上の正解は変わりませんが、合格基準が細かく科目ごとに設定され、必須問題は50%に引き上げとなりました。

そして、今回の国家試験を一言で言うと、高得点を狙える試験でした。初の国家試験ですから、予想通りでした。しかし、直前で詰め込み型の勉強をした学生さんの中には、衛生で基準点に到達しなかったというお話をいくつか聞いています。合格発表は3月30日です。4月には、皆さんの下に6年制の薬剤師が来られます。

「4年制教育だった私たちは大丈夫なのかしら?」というお声をよく聞きます。大丈夫です! 皆様は先に現場に出ている先輩なので、自信を持ってください。「こんなに大変になった国家試験、今では合格できないわ」と思っている方もいると思います。はい、今の国家試験は確実に大変です。ですから、私たちはラッキーだったのです。でも、私たちが勉強したときと今の国家試験を比べると、「大切なことは変わりません」。私たちは、「ひと」を化学的に学んできたのです。30年前の「ひと」と今の「ひと」は、変わったでしょうか? 血が青から赤に変わった? 変わってませんよね。「ひと」は「ホモサピエンス」に進化してきましたが、本質は変わっていません。ですから、大切なことも変わっていないのです。

自信をもって6年制の薬剤師を受け入れましょう。そして、新しい知識をもらい、現場の知識をあげて、私たちも進化しましょう。薬学部が6年制になったことは、私たちにとってもチャンスなのです。

Medisere(メディセレ) 代表取締役社長 児島 恵美子